新春を迎えて

鹿児島県社会福祉協議会
会長　今吉　弘

あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春をお健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、本格的な少子・高齢社会の到来により、地域住民の福祉に対する需要はますます増大かつ多様化しております。また、団塊の世代の退職、人口減少社会の到来など、社会福祉を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。このような中、国においては、持続可能な社会保障制度を構築し、将来への不安を解消すべく各種制度改革が進められております。

こうした激動する社会状況のもとで、何よりも大事なことは、援助が必要な方々に制度が常に的確に活かされていくことであります。

また、これまで社会福祉が守備範囲としてこなかった領域、制度と制度の狭間にある課題にいかに対応していくか、本当に困っている方々に支援の手が届く福祉のあり方を考究していかなければなりません。

私ども県社会福祉協議会としましては、本県の地域福祉の推進を図るため、さまざまな事業を展開しており、平成19年度からはさらに、障害者自立支援法に基づく制度の円滑な運用を図るため、「障害者福祉相談体制整備特別支援事業」や「障害福祉人材育成研修事業」に取り組んでおります。

また、本年10月25日から28日にかけて、60歳以上の高齢者を中心としたスポーツ・文化・健康づくりや生きがいづくりを目指す総合的な祭典「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」が本県において開催されます。すこやか長寿社会を目指す有意義な大会であり、全国から多くの方々が来県される大事な機会でもあります。多くの関係者と一体となって、この大会の成功のため努力して参ります。

今後とも困難な課題を乗り越えながら多くの事業主体等との連携を密にして、住み慣れた地域の中で安心して暮らせる社会の実現に向けて、努力したいと存じます。

今年も皆様がますますご健勝にて、ご活躍されることを祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

大韓民国 全羅北道社会福祉協議会役職員 来鹿

〝鹿児島県内の福祉施設・社協等を訪問し、活発な意見交換が行われた〟

鹿児島県社会福祉協議会と大韓民国 全羅北道社会福祉協議会は、社会福祉に関する情報等を相互に交換し、両県・道民の福祉増進に寄与することを目的に、平成12年度から相互交流が始まり、さらに平成15年度には姉妹盟約を締結しました。

今年度は、平成19年11月26日から30日までの5日間の日程で、全羅北道社会福祉協議会役職員等11人が来鹿され、県内の社会福祉施設や社会福祉協議会等を訪問し、視察や意見交換等を行いました。

大韓民国内の天候不良のため一日遅れとなった来鹿初日は、正午過ぎに県社会福祉センターに到着し、さっそく県社会福祉協議会との事業懇談会に入り、両協議会の実施事業等についての意見交換、そして県の保健福祉部長へ表敬訪問を行いました。

県社協との事業懇談会の様子

○訪問先での概要

訪問先である「県児童総合相談センター」では、同センターの機能、児童虐待等の相談内容や両国の取組状況などを、また、指宿市にある「かごしま青少年自立センター静活館」では、大韓民国内でも課題となっている青少年への就労支援の取組状況等について多くの意見交換が行われました。

介護老人福祉施設「加世田アルテンハイム」では運営上の課題や問題点等について意見交換や視察を行い、また「霧島市社会福祉協議会」では給食サービスやデイサービス事業の実施状況を視察・意見交換等を行いました。特に、今年から大韓民国でも日本の介護保険制度と同様の制度が始まることから関心も高く、同制度下における施設運営やサービスの質の向上方法等について多くの質問が出されました。

「メディポリス指宿」（宿泊や疾病予防、健康増進等を行う施設）では高度先端医療として注目を集める「粒子線治療」について説明を受けたり、29日には「平成19年度地域福祉推進大会」へ出席し（3頁参照）、訪問団を代表して徐（そう）会長が祝辞を述べられ多くの拍手を受けました。

デイサービス事業の視察（霧島市社協）

視察団は、今回訪問した施設全てにおいて、大韓民国の福祉施策等と対比しながら、終始運営状況等について熱心な質問を行い、私どもにとっても改めて課題や問題点が浮き彫りになった有意義な訪問となりました。

訪問先の施設及び県関係機関等多くの方がたから多大なご支援ご協力をいただきましたことに対し厚くお礼を申し上げます。

【訪問視察協力先】
鹿児島県児童総合相談センター
介護老人福祉施設 加世田アルテンハイム
ふれあいプラザ　なのはな館
特定非営利活動法人 かごしま青少年自立センター静活館
メディポリス指宿
かごしま県民交流センター
鹿児島県介護実習・普及センター
社会福祉法人　霧島市社会福祉協議会